

学校法人北部学園
 認定こども園
 ほくぶ幼稚園
 園長 清田明子

2019年度重点的に取り組む教育目標・計画

認定こども園教育要領を踏まえ一人一人を大切にしたい、園目標に沿った質の高い実践を目指す。

- ・研修と実践 学習活動の充実と実践エピソード記録から質を考える
- ・食育活動 給食の質(安全な食材確保)献立の見直し 幼稚園ファームの充実
- ・安全管理 安全点検と危機管理状況 遊具の安全点検
- ・特別支援教育の充実 チーム保育の取り組みの強化

2019年度 研修年間実施したもの

研修と実践	方針	1、育ちあう子ども集団（個と集団の在り方研究） 2、生活に必要な文化教材研究
		1、育ち合う子ども集団
	分析課題	個と集団の取り組みの中で、各年齢ごとの縦のつながりで「遊び」や「課題活動」を1号児への取り組み2号児への取り組み保育者間の連携が、少し学年長の位置づけが強化され、より連携が深まった。（記録の共有・会議参加の充実等） ・日々の保育でいうと、集団の質の問題では、クラスの差が出て、保護者との理解度に関わってきた。 来年度はこれを丁寧に分析し、保育者の環境の整備も必要かとも思われた。（業務整理と個人の技術の強化）
	概要	各年齢別研究の充実、年齢別保育公開2年目 自然と遊びあおぞら時間保育研究
	分析課題	公開保育をして互いの保育の見直し、子ども観の共有の向上につなげた取り組みが難しかった。 ・未満児と3歳以上児の保育者の体制 労働時間管理の違いで、0～5才を見通す保育検討には至らなかった。 ・認定こども園における以上児の姿は、各クラスに全く異なる保育時間の子どもが混在することで、安定した時間スケジュールを組み立てることが難しいのか、保育者の技量の問題か、来年度も丁寧にしながら、年齢別の保育と異年齢集団活動の在り方は、研究し続ける必要がある。
研修計画	計画方針	1、保育者の研修体制の強化 園外研修参加 2、実践発表しながら、外部講師とともに研究
	計画概要	保育者と子どもとの育ち合う保育エピソード記録 ＜音遊びの研究・こども集団の育ち研究＞ 子どもの身体の育ちの研究(2020年度持ち越し)

2、生活に必要な文化教材研究＞

研修実施内容>

教材研究として音と出会う取り組み・教材

(自然の音集めと音の出るモノづくり研究) (木工工作に必要な道具教材研究)

2019年研究テーマ>子どもとつくる保育”

1、“子どもとつくる保育”テーマをもとに保育実践を積み重ね、その記録を公開し、学び合うことで保育を深める。

考え方例>

- ・子どもとつくる“音遊び”
- ・子どもとつくる“集団づくり”
- ・子どもとつくる“遊び”
- ・子どもとつくる“生活づくり”
- ・子どもとつくる“○○○”

助言者；加藤繁美先生

2019年度 “子どもとつくる保育” 研究 年間園内研修計画 (資料1)

月	『子どもとつくる保育』の研究の流れ
4	研修委員会開催：研究年間計画を検討する。 ・園研修、個人研修、自己研修申請を提出（6月中旬まで） ・全保育者が実践報告を提出する(保育日誌)<各保育者研究テーマ選択>
5	・13日(月)・2018年度 音遊び実践報告会及び 清田裕美子さんから「自然と音(仮題)」講話 ・各自の園外研修(園研修・個人研修・自己研修)の希望を決め、 申請書を提出する。(中旬意思表示締め切り、下旬には決定)
6	・12日(水)『プロジェクト保育のイメージ』 尚綱短大(二子石諒太先生) ・24日(月)『心構えや接遇・コミュニケーションのとり方』 講師：津地尚文氏
9	5日(木)研修会議 “子どもとつくる保育”の実践記録をもとに 各学年どんなテーマで進めていくのか検討する。
10	・“あそびっこ”の自然の中での音遊びについて(提案)
11	7日(木)研修会議・公開保育実践報告する保育者を決める。・あそびっこ”で音遊びを 体験できるように具体化する。
2	8日(土) “子どもとつくる保育” 公開実践報告

課題図書※加藤繁美先生の著書

『子どもと歩けばおもしろい』 「対話と保育実践のフーガ」

みんなのねがい ちいさいなかま エドゥカーレ その他申請されたものは個の研修費 対象

2019年度 研修費補助対象園外研修会一覧

日付	研修区分	研修会名	研修参加者
6/8(土)～ 6/9(日)	園研修 (実践提案あり。それを支えるため参加)	第36回全障研九州ブロック集会in北九州	園長・江口・村上・森山・横山・木村 (6名)
6/7(金)～ 6/9(日)		第58回全国保育問題研究集会 熊本集会	18名参加
2019 夏休み園外研修会一覧(園推薦)			

7/27(土)～ 28(日)	園研修 (テーマを持って 研修する場合)	第42回乳幼児研究集会in伊豆 『子どもとつくる保育』 提案(津留)	園長・津留(提案) ・滝崎・島木・田中・木村 6名
8/2(土)～ 8/5(月)		第53回全障研全国大会in長野	申請なし
8/4(土)～ 8/5(日)	園研修 (テーマを持って 研修する場合)	第51回 全国保育団体合同研 究集会in名古屋	江口・津留
2019 二学期～研修一覧			
日付	研修区分	研修会名	研修参加者
9/7(土)～ 9/8(日)	園研修 (テーマを持って 研修する場合)	第49回 九州保育団体合同 研究集会in宮崎 (宮崎公立大学・南九州大学) 『4・5歳児保育』提案(原)	原・父母・島木・梶・福地・ 西村・田中・ 松村・松本・石本
11/16(土) 11/11(日)		第34回全国保育所給食セミナ ー in 三重県伊勢市	佐藤・村田・
12/14(土)～ 12/15(日)	個の研修	保育プラザ・キャリアアップ 研修 Oマネジメント	松村
2020年 2/8(土)	園研修 (休園)	“子どもとつくる”保育研修 講師；加藤繁美先生 講師を囲んで懇談交流会 (5時半～8時)参加者13名	ほくぶ幼稚園職員 泗水幼稚園5名 双羽幼稚園3 名尚絅短大等研究者 学生(新規採用者)

2019年度研修実施・分析と課題>

様々な研修に取り組み、保育者個人の成長はできてきた。同時にほくぶ幼稚園の研修の在り方、計画実施に向けての具体的取り組み、展開の方法は、若干課題が残ったと思われる。残された課題は、以下2020年から2021年度2か年計画で実施することが重要ではないかと分析し課題とする。

研修部の在り方を整理しなおす。

研修の方針は、ほくぶ幼稚園の保育教育の質の向上のためであること

研修は以下の形で実施計画が立てられていなかったことを振り返る。(実際には実行していることもあったが改めて計画表に出して整理する必要がある。)

対象別に北部学園としての独自の計画課題 作成が必要(課題の中に記載)

以上分析課題を明らかにして、評価した。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価	評価項目	評価	取り組み状況
I	教育課程の見直しエピソード記録から教育の質向上と、研修の充実が図られたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳以上児実践の中からのエピソード記録の充実を図った。音の研究は遊びっこまでに自然物との出会いから、本物の楽器に出会って、一層関心が高まった。 ・加藤研究会3年間実施が、保育者の記録に対する意識の向上・伝える書くことの意味を深めること

	(特別支援教育の充実に向けて) インクルーシブ保育の充実		<p>ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育保育における、保育者の役割分担等、担任と特支担当と明確にして課題を整理する視点をはっきりすることがよいとなった。課題が整理することは確認できたが、支援保育者の在り方の工夫が求められた。 ・チーム保育人的連携の在り方の課題が残った。
2	食育の質向上と取り組み	A	<p>管理栄養士と保育者の連携で、保育内クッキング実施に、栄養士及び幼稚園ファーム専門員も参加し、活動が共有できたことは大きな前進。自然との出会いも食環境との関係の中で保育が成立することを深める年となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園ファームの野菜の出荷も増え、年間30%程度の平均時給率となった。 <p>保護者への試食会等、園の方針への理解を「安全な食材」という視点で保護者会とも連携できるとよいかと思った。</p> <p>野菜の販売等については共通の理解をして、進めることが重要。</p>
3	園環境整備と安全管理	B	<p>建物土地関係で、西駐車場の整備や、南側斜面の擁壁工事をすることで、建物の安全性を確保できた。室内環境については保育室の環境等、クラスの偏りがあるが、ごみの量を減らし、エコな環境づくり等に関心が高まる年になった。</p> <p>それらを恒常的に進めるまでの意味につなげるには少し課題が残っている。</p> <p>また園庭の遊具の管理についてももう少し工夫が出ると、より快適になるのではないかと課題も出てきた。⇒2020年園庭環境プロジェクト再編成</p>

評価 (A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった)

園運営の総合的な評価結果

評価	理由
B	1、取り組みの中で保育技術の上で課題が残る。 3、については、園庭遊具管理 等課題が少し残っている。

今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み
I	0～5歳までを見通した、保育教育方針の共有化	<p>0～3歳までの見通しと、3～5才への接続の在り方 保育者間のチームでの研修の質向上</p> <p>1、管理職研修 ＜園長 主幹対象＞⇒講師 理事長 学園長 外部講師</p>

	特別支援の在り方の検討	<p>2、中堅幹部研修 <経験年数5年以上 キャリア職員>⇒講師 理事長 学園長 園長 ※1・2の目的>幹部教育を目的とする。北部学園理解を進め、理業務の充実を図る。</p> <p>3、一般研修 <経験年数は問わないが、おおむね2年以上10年未満> ※保育の質の向上のための、保育内容研修を中心に各種研究会への参加を促す。</p> <p>4、新規採用研修あり方 <園1年目職員・他園から移ってきた1年目も含む> ※新規大学卒は、県・市の指定の研修内容で実施する要件を満たす研修受講(例年通り) ※園内独自計画に10時間 ※他園から園に初めて就職したのものも含む研修企画が必要 ※指定した研修会に参加(文科省義務) ・国・県・市からの通知による研修義務的な要素を判断する ・支援の必要な子どもで長時間の子どもの活動への工夫配慮は課題が残る。仲間の中での育ちあいの発見で、見え方が変わってくる事例の掘り起しが重要か。</p>
2	保護者理解	<p>1・2号の保護者の声や、園行事の在り方など、子どもを共に育てていくうえでの理解を深める(教育講演会等の充実) 園行事の見直し(夏祭り、夜の幼稚園等) 地域連携の中での保護者同士の育ち合いの在り方</p>
3	安全管理	<p>緊急事態発生に備えて、危機管理マニュアルの共通理解同時にマニュアルの改善を図る・非常食の用意</p>

<学校関係者評価報告内容>

外部評価委員会への報告

日 時 2020年1月21日(火) 午前10時30分～午後12時30分

場 所 ほくぶ幼稚園 2階ホール

参加者 <ほくぶ幼稚園外部評価委員>

ほくぶ町づくり委員会 久保正章様

老健施設 かなこぎ苑 伊東山徹代様 地域ボランティアグループ代表 吉永京子様

地域主任児童委員 津地尚文様 地域絵本読み聞かせボランティア 船島和子様

ほくぶ幼稚園 理事長 清田史和 園長 清田明子 副園長 木村さつき

主幹 飯塚雄一 松村明子

北部学園の運営を振り返って、(1月までの実情)

◆事業

1、2019年度、学園としての大きな動きは、泗水幼稚園(菊池市) 民営化による移譲を受け、2020年4月より運営がはじまる。

副園長1名 主幹1名 保育者3名(現泗水幼稚園保育者2名、他園経験者1名)

2019年10月より、引継ぎ人事により、学園職員として泗水幼稚園に配属されている。

特別企画事業>

オープンセレモニー 4月30日 泗水公民館

ポーランド幼児向け劇団による 「紙のサティさん」企画準備中

地域に文化の風を！という学園の大きな理念の下泗水の皆さんと「園づくり」をしていく。

2、園の施設運営上では、西駐車場の整備や、新園舎東側土手斜面の土砂崩れ防止のための擁壁工事をした。(自己資金)

西駐車場整備に伴い、安全管理上正門前の市道と幼稚園畑側から出る交差点に、近隣住民の皆さんと話し合い、カーブミラー設置をする旨、行政と調整ができたので、3月までには実施できる見通し。

※これらは、2020年度以降園児の活動の在り方や、保護者の施設利用の置ける駐車場整備が必要になるため、地域の皆さんの同意を受けながらの整備計画につなげるのが目的。

2020年度計画予定事業>

北部学園 地域文化芸術部門と国際交流部門の創設をする。

場所 鹿子木町96-5 4~5月開設予定

イメージ>

日常的に大人も憩える場づくりと、学園の職員研修場所

今まで行ってきた国際交流活動をもう少し地域に見える形に展開していくことを考えている。

2020年をもって学童保育終了するため、小中学生が気軽に立ち寄り、「交流学びができるスペースづくり」を進める。特に長期夏休み等の企画

◆運営管理

現職員数>

管理運営 園長1名 副園長1名 主幹2名 事務局2名

保育教諭 27名(内育休2名) 保育パート5名(有資格者)

給食管理 管理栄養士1名 栄養士1名 調理有資格パート5名

用務関係 男性65歳以上 2名 バス運転専任1名

上記の職員で業務の実施をしている。

園児数>

	0才	1才	2才	満3歳児	3歳児		4歳児		5歳児		園児合計
園児号数	3号			1号	1号	2号	1号	2号	1号	2号	
現園児数	4	18	23	5	30	29	25	31	23	35	223
来年園児数 (支援必要児)	4	18	21 (?)	12 (?)	20 (2)	29 (1+?)	30 (4)	29 (?)	24 (5)	32 (1+?)	219 (13+?)

中期的展望において、利用定員の引き下げを熊本市に申請している。

1号子どもは、3歳以上児 120名定員から75名に引き下げ(令和元年実施)

3号が本来利用定員 0才3名 1才12名 2歳18名計36名⇒45名の受け入れ)

2号定員待機児童有(現在 利用定員90名⇒95名の受け入れ)

◆制度変更に伴う園の課題

2019年10月より、国の方針により、保育料の無償化となり、事務的作業の変更が多くなったが、園は常勤事務局が事務長と連携して、行政との関係での対応はスムーズに進むことができた。保護者への説明も丁寧に行うことができた。

一時預かり保育制度の実施の課題>

幼稚園的利用の1号の保護者向け一時的に預かり保育制度が始まった。(別紙)

1号保護者対応≫ 預かり申請が多くでた場合、別紙のように新しいタイプの保育受け入れとなり、保育体制が困難になる。1号子どもと2号子どもの利用定員数は決められている。それを超えての受け入れは園内オーバーになる。国の無償化の方針で、「働かないと損」的感覚が保護者に出始めている??あるいは、どれだけでも申請したら預かってくれる保育施設??と勘違いが始まるのではないかと心配事が増えた。

「丁寧な保育」「保育の質の向上」等の保育環境が損なわれていくなど、職員の労働負担が多くなるため、現状ほくぶ幼稚園は、定員以上は難しいと、保護者にも伝え、1~2名の緊急預かりのみとなっている。今後はわからない。

2・3保護者対応≫

「長時間保育利用の保護者の迎えの時間」次第に遅くなり始めているという実態があり、8月に保護者に対するの対応を検討。保育サービスのみを求め、保育者の働き方改革にもつながらない事例もある。

◆働き方改革による職場環境管理の改善>

職員の労働時間管理のため、10月1日からタイムカード導入にした。

全国的にも保育者の離職率が高く、様々な労働時間管理の難しさが指摘されているため、超過の実態把握も含め、取り組んでいる。11月12月1月と各職員も「自己管理能力」を高めるとともに、管理職員も合理的指導計画を持ち、超過の実態がある場合は、事前に申請を促している。

1月からは、だいぶ計画残業取得届が出るようになった。

(月平均4時間程度)一方で、年間労働カレンダー実施し、夏休み短縮勤務の実施、をしている。

有休取得率をどう高めるか>

専属の社労士の指導の下、新法律対応をしているが、(最低5日は消化等..)さらに改善策を相談している。パート職員も、5日有給休暇保障の実行を始めている。2020年度にさらに消化率を高めたいと対応している、<現状約30%>

◆保育内容の質の向上 年間の計画と実施

研修計画実施内容 <資料1>

副園長より

安全委員会 <資料2>

主幹より

食育委員会 <資料3>

主幹より

幼稚園ファームの実践

(ファーム見学実施)

第三者委員会への報告

意見・要望の受付について報告

事例1

1歳児の散歩に出入りする門のところで、保育者の見守りが不十分で、1才の幼児が園の駐車場で困っていたところ、保護者がフォローして保育者に報告してくれた。父親

より、心配の声有。

《対応》

原因として、目視のみの確認になってしまい職員間の声の掛け合いを怠った。

改善策として

- ①子どもの姿を把握し、職員間で声を掛けあいながら人数確認を怠らない。
- ②1学期の午後の過ごし方を見直し、しばらくは、室内で過ごすようにする。
父親にも改善策として報告する。

事例2

<年少男児>

「二日間、同じ男児から嘔まれて帰ってきたのに何も説明を受けていない。うちの子が何かことをしたのか聞きたい。」夕刻7時近く、電話があった。

《対応》

担任と話をし、嘔みつかれたこと理由は、良くないことをした男児に注意したことが原因だった。翌朝、母親と確認して、父親にも、状況電話で伝えた。納得された。

※母親から父親には、伝わりにくいことがわかったので、今後は、母親の了解を得て、父親にも伝える必要があることを担任と確認する。

他ケガの発生1件について、保育上の方法で、子どもへの対応に対するご意見をいただいた等、学校評価委員会に報告

全体の報告を受け各委員の評価

《評価》

1,ほくぶ幼稚園の教育目標に対しての取り組みがよく見えた。

- ・自然の中でそれを生かした保育は、苦勞も多いだろうが、これらの方針を続けてほしい。今学校では、「規則に縛られて」子どもの自発性がなかなか大切にされない側面もあり、北部学園は貴重な体験をしている。
- ・保護者対応もいろいろあるだろうが、丁寧に対応している姿がよく分かった。

2,地域の安全対策として、自治会や、老健施設との連携を今後も密にして行うことが大切という意見具体的には、防災訓練など、近くの老健施設との連携実施（年1回）

3,子育ての情報の共有も積極的に取り組むことが重要、園開放の取り組みは今後も続けて取り組むべきという意見。

芸術文化活動

国際交流活動

1、音楽交流<インドネシアのアンクルの音 アフリカジャンベの音 日本の竹や木の音>

招待講師 尾上佳代 (NPO法人 ブリッジフォースマイル事務局) ジャンベ演奏家
インドネシアジャワ島 留学生 アンクル演奏
コーディネーター 吉永 洋子氏

2、園訪問交流(ペルーリマ市サンホセモンテリコ学校(幼稚園園長と通訳 宮田信一先生)